

雌阿寒岳の火山活動解説資料（令和6年5月）

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1-①～⑥、図2～3）

監視カメラによる観測では、各火口の噴気の高さ（いずれも火口縁上の高さ）は、ポンマチネシリ96-1火口及び中マチネシリ火口で200m以下、赤沼火口及び北西斜面06噴気孔列では100m未満で経過しており、噴気活動は低調な状態です。

・地震及び微動の発生状況（図1-⑦～⑧、図4、図6～7）

火山性地震の回数は少なく、地震活動は概ね低調に経過しました。震源は主にポンマチネシリ火口の深さ0km付近に分布しました。

6月2日（期間外）に継続時間約6分間の振幅の小さな火山性微動が発生しました。また、この火山性微動の発生前後にポンマチネシリ火口の深さ0km付近を震源とする火山性地震が、一時的にやや増加しました。

・地殻変動の状況（図5、図7）

GNSS連続観測では、火山活動の高まりを示すような変化は認められません。

山頂付近に設置した広帯域地震計（西山観測点）で、6月2日に発生した火山性微動と同期して、ポンマチネシリ火口方向が上がる傾斜変動を観測しました。

この火山活動解説資料は、気象庁のホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道及び地方独立行政法人北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』、『電子地形図（タイル）』及び『基盤地図情報』を使用しています。

次回の火山活動解説資料（令和6年6月分）は令和6年7月8日に発表する予定です。

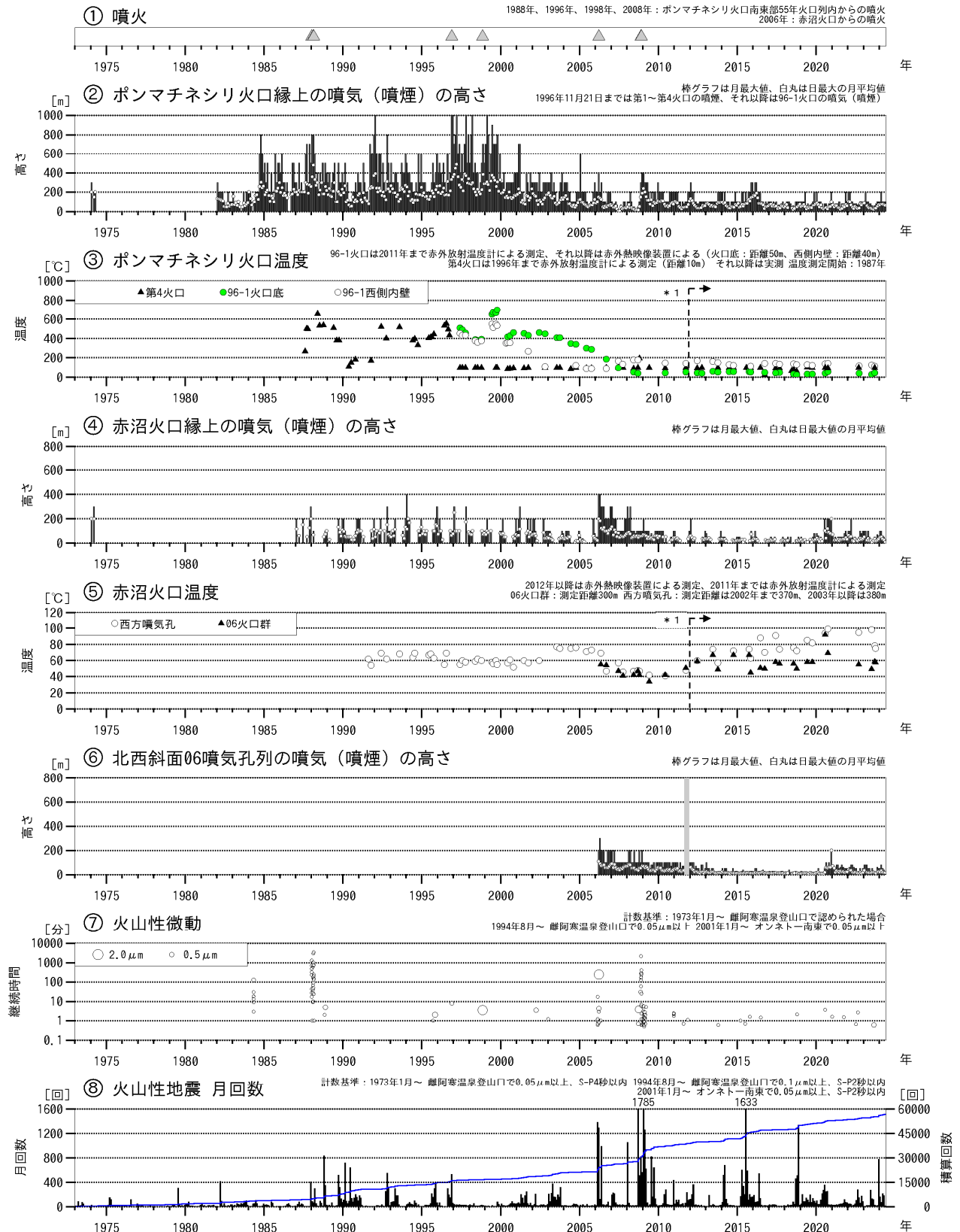


図1 雌阿寒岳 火山活動経過図（1973年1月～2024年5月）

⑥の灰色部分は機器障害による欠測を示します。

2012年（*1）に測定機器を変更したため、その前後で測定温度に差が生じる可能性があります。

各火口の位置は図9を参照してください。



図2 雌阿寒岳 南東側から見た赤沼火口、96-1火口及び中マチネシリ火口の状況
(上徹別^{かみてしべつ}監視カメラによる)



図3 雌阿寒岳 西側から見た赤沼火口及び北西斜面 06 噴気孔列の状況
(オンネトー展望台（道）監視カメラによる)

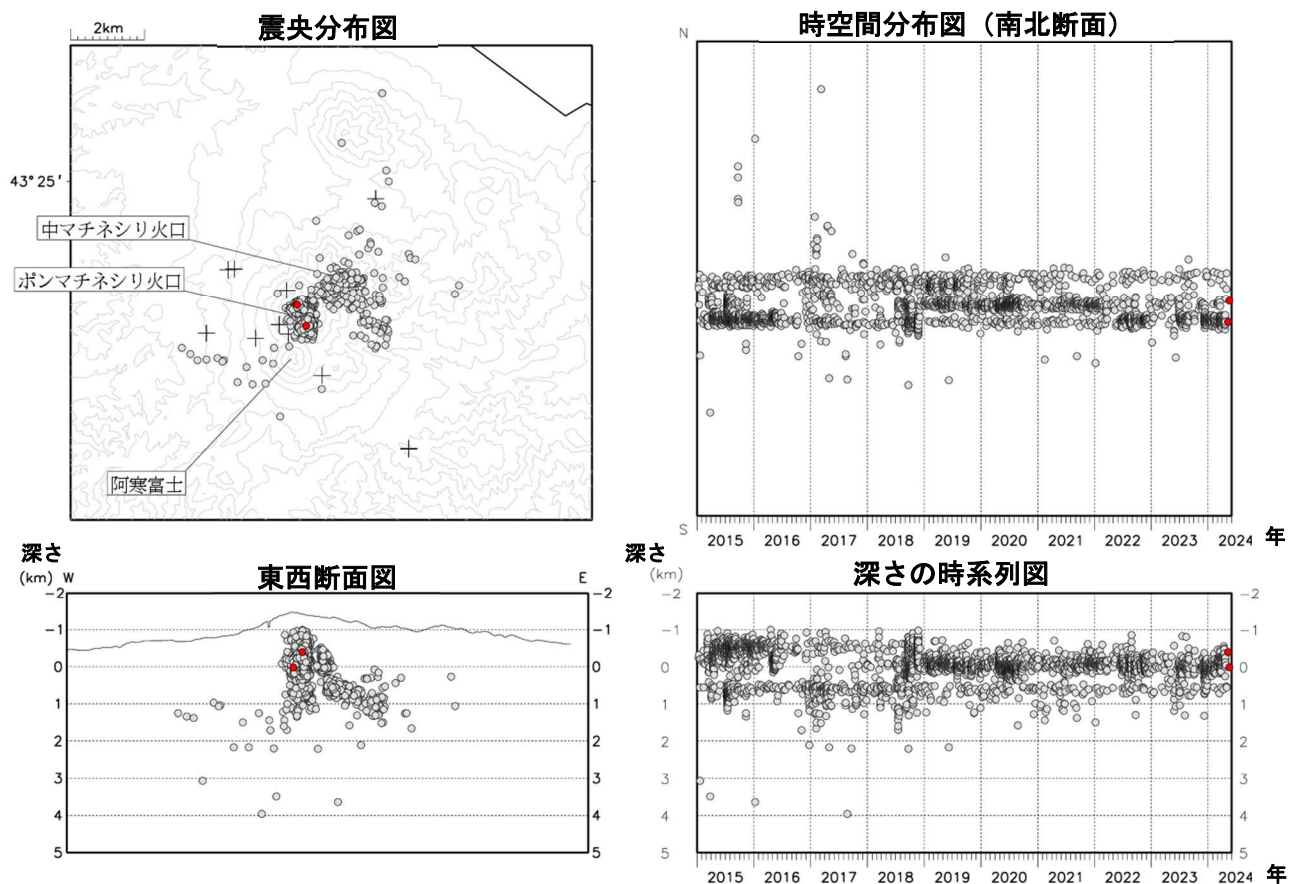
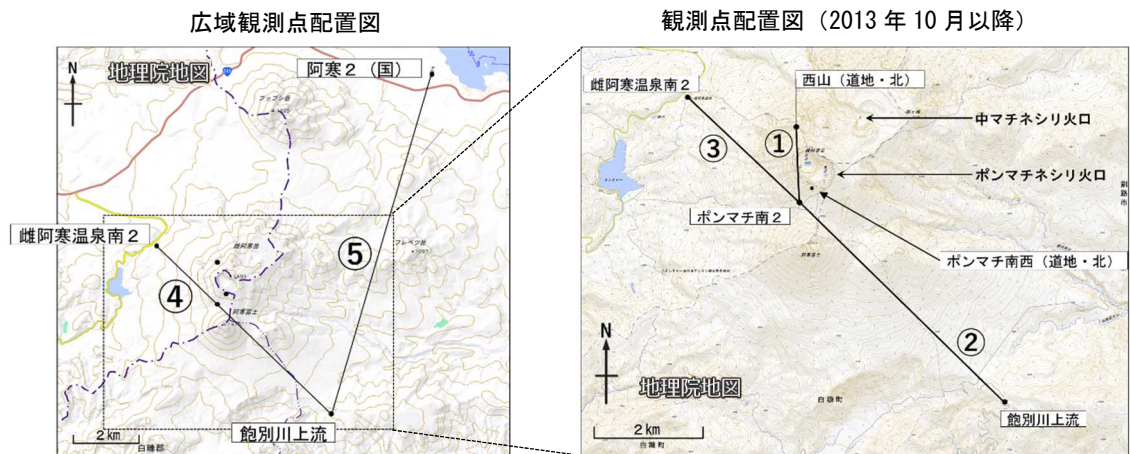
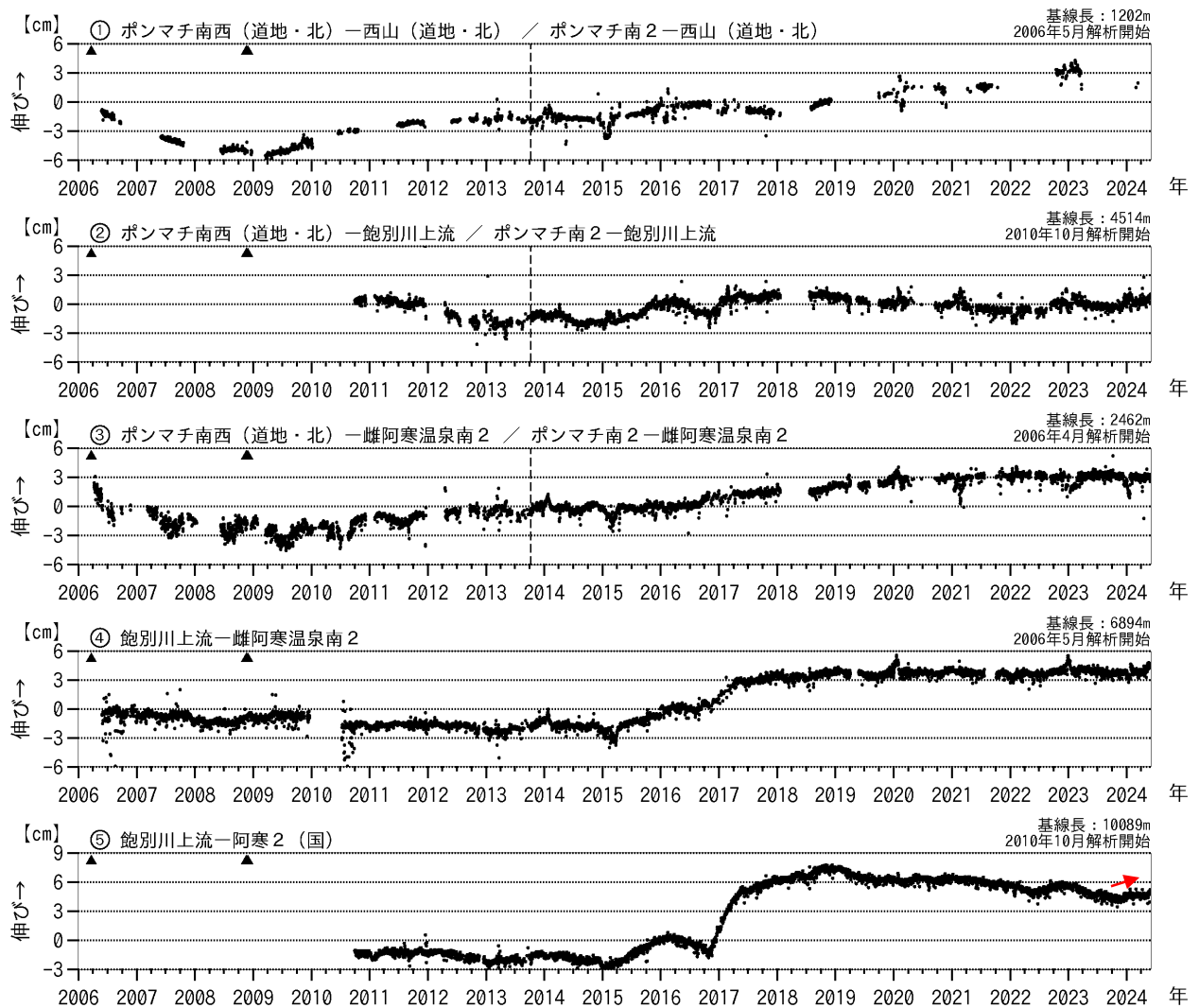


図4 雌阿寒岳 火山性地震の震源分布（2015年1月～2024年5月）

●：2015年1月～2024年4月の震源 ●：2024年5月の震源 +：地震観測点



（国）：国土地理院 （北）：北海道大学 （道地）：北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所

図5 雌阿寒岳 GNSS連続観測による基線長変化（2006年4月～2024年5月）及び観測点配置図

グラフ①～⑤は観測点配置図の基線①～⑤に対応しています。

▲はごく小規模な噴火の発生を、空白部分は欠測をそれぞれ示します。

グラフ①～③では2013年10月10日（縦破線）にポンマチ南西からポンマチ南2に変更しています。

冬季に凍上や積雪の影響によって考えられる変動がみられる基線があります。

・2023年12月頃～2024年1月頃にかけて山体膨張を示すと考えられるわずかな変化（赤矢印）が基線⑤でみられました。

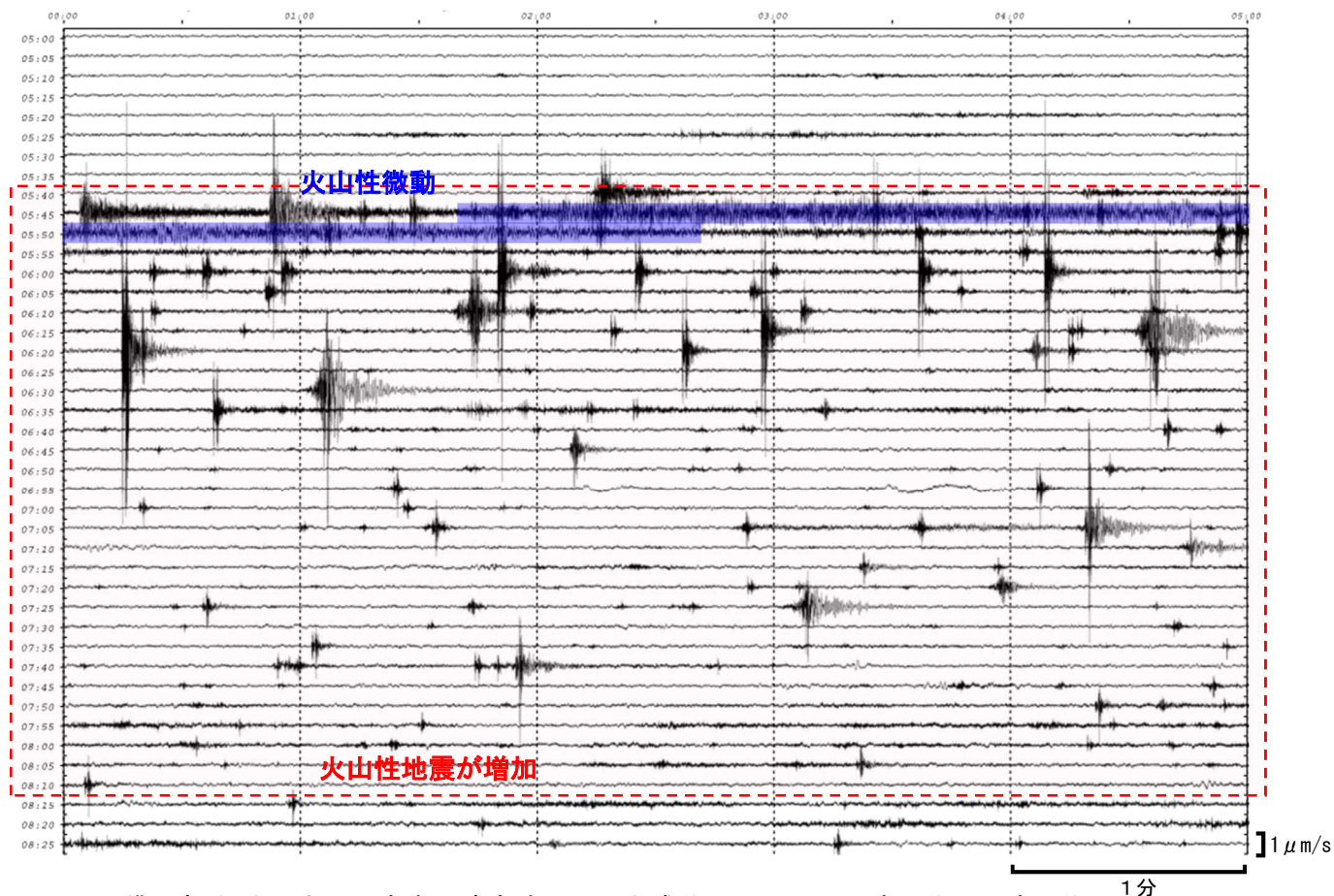


図6 雌阿寒岳 オンネトー南東の速度波形上下動成分（6月2日05時00分～08時30分）
 ・6月2日05時46分頃から継続時間約6分間の火山性微動を観測しました。火山性微動の発生前後に一時的に火山性地震が増加しました。

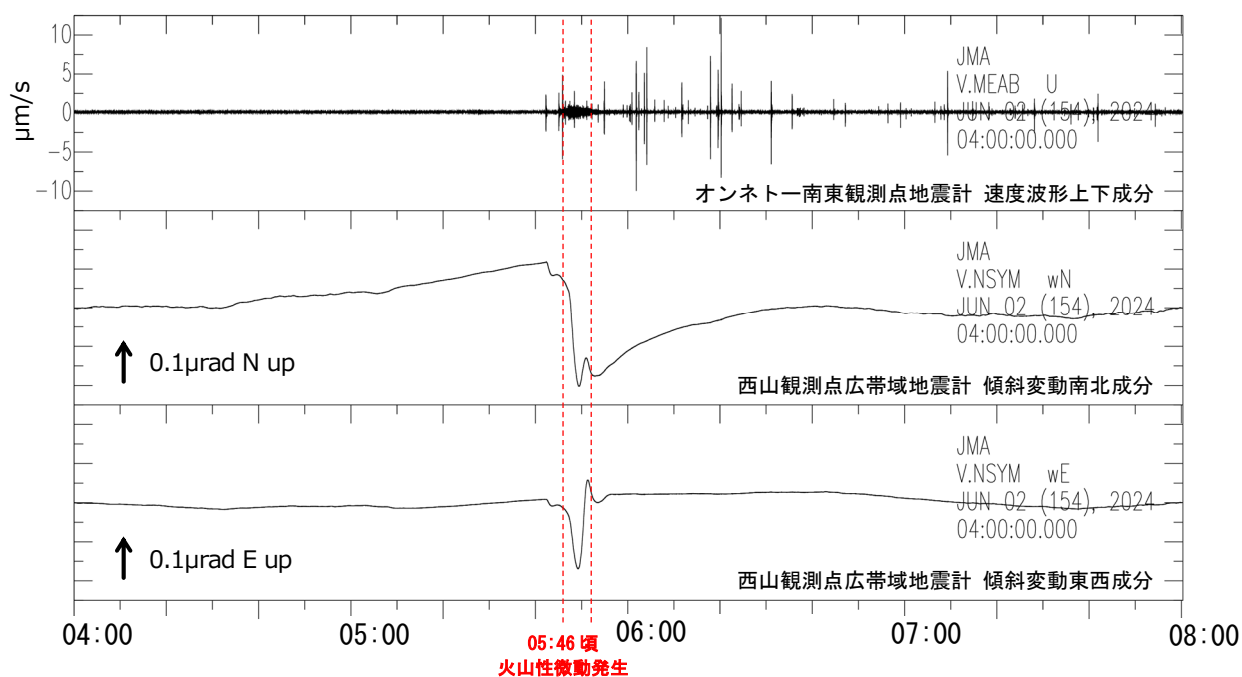


図7 雌阿寒岳 6月2日に発生した火山性微動と同期した傾斜変動（6月2日4時～8時）
 ・山頂付近に設置した広帯域地震計（西山観測点）で、6月2日に発生した火山性微動と同期して、ポンマチネシリ火口方向が上がる傾斜変動を観測しました。

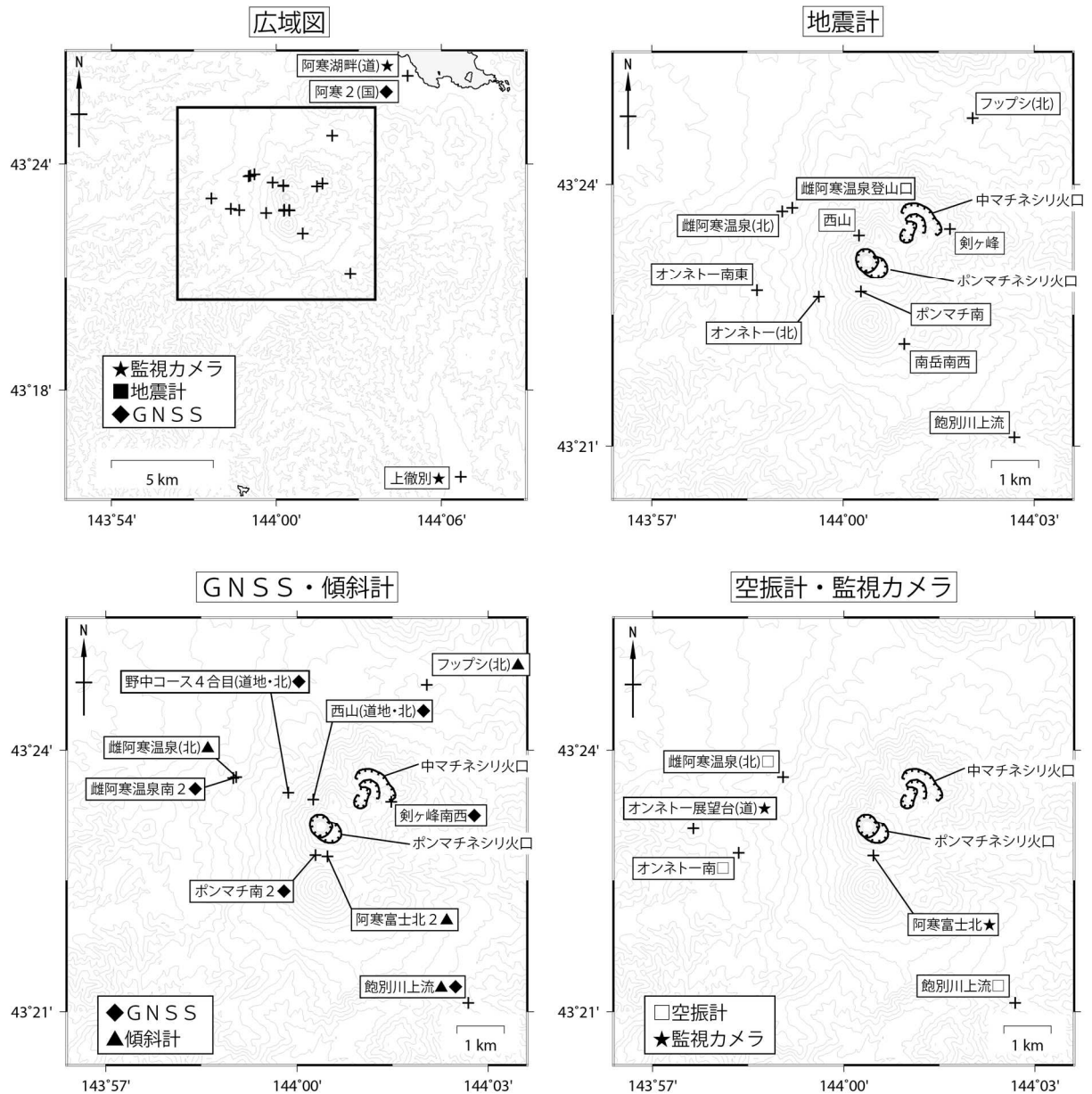


図8 雌阿寒岳 観測点配置図

各機器の配置図は広域図内太枠線で示した領域の拡大で、+印は観測点の位置を示します。
気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

(国)：国土地理院 (北)：北海道大学 (道)：北海道
(道地)：北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所

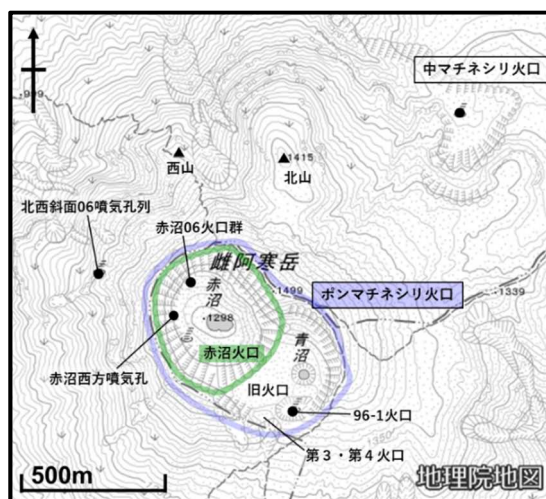


図9 雌阿寒岳 火口周辺図